

3年ぶり
NO 603



令和3年3月9日



小田原市立城山中学校
学年主任 水野喜代治

卒業式で歌う「大地讃頌」

卒業式で、みんなが歌う「大地讃頌」は、本当は組曲です。「土の歌」という作品の最後の第7楽章の合唱曲にあたります。この曲は7楽章からなる壮大の組曲の一部なのです。

この曲を作詞をした大木惇夫さん（1895年～1977年）は、広島生まれで、平和への願いを込めてこの組曲を作り上げました。

大地讃頌は、大地への感謝の気持ちを歌い上げた秀作です。この世の全ての生命は、亡くなれば最後は大地に帰ります。そして、大地は一方で植物に芽を出させ、花を咲かせ、生命の息吹を与えます。

どんな過ちも、苦しみも、憎しみも、怒りも、優しさも、温もりも、喜びも、それらすべては、最後は静かな大地に、豊かな大地に帰ります。そして、一粒の種が芽を出し、大地の恵みを動物が享受し確かな生命が動き始めます。大地は、命を包み込み、命を生み出すのです。76年前の太平洋戦争で落とされた原子爆弾によって、広島は灰になりました。しかし、その極限の廃墟の中でも、大地は植物に恵みを与え続けます。アオギリが空に向かって芽を伸ばしました。人は、大地を汚すことはできても、消し去ることはできません。人は、この大地にいかされていることを意識し、感じて生きていかなければならないと作者は歌の中で繰り返し訴えています。

私たちが意識できるもう一つの大地は、お父さんであり、お母さんであり、…家族なのではないでしょうか。0歳で命をいただいてから今日まで、見守っていただいたお母さんであり、お父さんであり…家族の方々が一人ひとりにとって、もう一つの大地だと思います。家族からのあなたがたへの想いは、何物も消し去ることはできません。温もりと優しさあふれる柔らかい手のひらで、いつも包み込んでくれています。今、手のひらからそっとぬけて、感謝を込めて大地讃頌を歌ってくださいね。歌の出だしの歌詞が「母なる大地です。」

みなさんの中学校の最後の歌声を心して聞かせてもらおうと思っています。3年間のあなたがたとの思い出とともに……。

「土の歌」第7楽章…大地讃頌…

母なる大地の ふところに
我ら人の子の 喜びはある
大地を愛せよ 大地に生きる
人の子ら その立つ土に感謝せよ

平和な大地を 静かな大地を
大地を褒めよ 讃えよ土を
恩寵（おんちよう）の豊かな大地 我ら人の子の
大地を褒めよ 讃えよ土を
母なる大地を 母なる大地を
讃えよ 褒めよ 讃えよ土を